

## 東地区新規大型プロジェクト始動

石狩湾新港管理組合  
石狩湾新港外貿貨物利用促進協議会  
北海道石狩市新港南2丁目725-1  
Tel 0133-64-6661 Fax 0133-64-6666  
<http://www.ishikari-bay-newport.jp>



試験突堤に着手(昭和48年)



第1船入港(昭和57年)

**新たなる港の創出**  
石狩湾新港の建設は、「石狩湾新港地域開発基本計画」(昭和47年8月策定)において、道央圏における物資需要の増大に対処するとともに、日本海沿岸地域及び北方圏諸国等との経済交流の拠点としての役割を担い、北海道の長期的かつ飛躍的発展を先導する開発事業として位置づけられ、この基本計画を受け、昭和47年

11月に石狩湾新港港湾計画を決定しました。

本港の整備は、木材需要の増加に伴う外材輸入に対応するために計画された東港頭から始められ、昭和48年1月の試験突堤工事が建設のスタートでした。それから9年を経た昭和57年8月にソ連(現ロシア)から北洋材を満載した「プランカ・レー」「ア号」が東港頭に接岸しました。当時の本港の整備状況は、水深マイナス10m、1バースのみの一部供用開始でしたが、関係者にとっては待望の第1船入港であり、札幌圏の海の玄関口として第一歩を踏み出した瞬間でした。



石狩湾新港(昭和57年)

北海道を先導する大規模プロジェクトとして、石狩湾沿岸に新たな港を創り、第1船が入港して40年、本港で新たなプロジェクトが始動し行つてきました。

石狩湾新港を知つてもらい、利用に繋げるため、過去にはこのような取り組みを行つてきました。

石狩湾新港を知つてもらい、利用に繋げるため、過去にはこのような取り組みを行つてきました。

さらに、港湾の背後地域にはリサイクル企業が多く立地するなど、本港がリサイクル拠点としての役割を果たすことが急務となり、東地区にリサイクル貨物を集約することになりました。

平成15年には、静脈物流ネットワークの拠点となる「リサイクルポート」として、国から指定を受けるなど、現在は、札幌圏の一大リサイクル拠点として、我が国の環境負荷の低減と循環型社会への構築に重要な役割を担っています。

## 第1船入港から40年の時代を経て と 木の取扱いからリサイクル貨物へ

石狩湾新港は、水深12mの岸壁整備などを進める「東地区国際物流ターミナル整備事業」が今春、国の新規事業に採択されました。本港での新たなふ頭の建設は、西地区国際物流ターミナル整備事業以来、約20年ぶりの大型プロジェクトとなります。

今回は東地区を紹介します。



### リサイクル貨物へ

北洋材の輸入量が減少していく中、本港の中央水路地区では、札幌圏から排出される金属くず等の循環型資源の急激な増加により、他の貨物の取扱いに支障をきたしている状況でした。本港は「札幌市に最も近い港」であるため、札幌圏から排出される循環型資源を効率的に集積させることができ、容易であり、北海道における静脈物流拠点としての期待が寄せられていました。

さらには、港湾の背後地域にはリサイクル企業が多く立地するなど、本港がリサイクル拠点としての役割を果たすことが急務となり、東地区にリサイクル貨物を集約することになりました。

平成15年には、静脈物流ネットワークの拠点となる「リサイクルポート」として、国から指定を受けるなど、現在は、札幌圏の一大リサイ

**ドリカム 6万人を集めめた野外コンサート**  
木材の取扱いがメインであった東ふ頭も、北洋材の輸入量が減少し、港の利用が伸び悩んでいました。石狩湾



ライジングサンロックフェスティバル(令和元年)

最初に整備された東地区で新たなプロジェクトが始動します。

# 描かれた東地区の未来

～カーボンニュートラルの実現に大きく貢献～

循環型社会の形成、再生可能エネルギーの導入促進

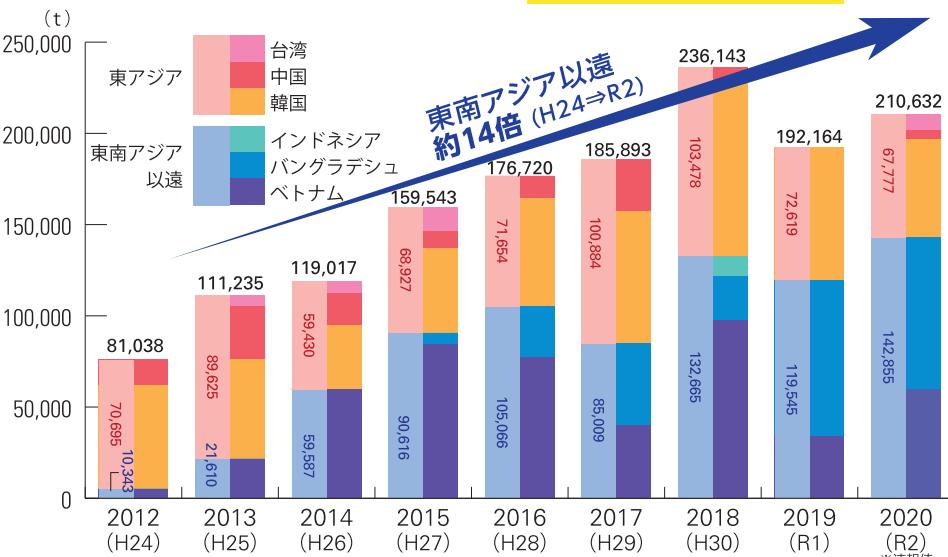
道民生活と企業活動を支える物流拠点としての役割

近年では関連する企業活動の活発化により、エネルギー供給拠点やリサイクル。

ルポートとして果たす役割はますます大きなものとなっています。

このよつなか、鉄スラッシュ市場は東アジアから東南アジアに向かって、本港も遠方諸国への輸出が増加しており、それに伴う船舶の大

## 石狩湾新港における再生資源(金属くず)輸出量



遠方諸国への輸出増加

東南アジア以遠  
約14倍 (H24⇒R2)

東アジア  
東南アジア  
以遠  
台湾  
中国  
韓国  
インドネシア  
バングラデシュ  
ベトナム



岸壁水深の不足による減載出港



石狩湾新港



高田国土交通省港湾局長(現国土交通省大臣官房技術総括審議官)に要望する石狩湾新港管理者・北海道知事 鈴木直道(令和2年10月)

就任のご挨拶  
苫米地 庄吾  
石狩湾新港管理組合  
専任副管理者



昭和60年北海道に入庁、水産林務部水産局漁港漁村課長、北海道開発局苫小牧港湾事務所長、小樽港湾事務所長などを経て、令和3年4月より現職

さらに、本年度から東地区では、鉄スクラップの海外への輸送やバイオマス発電の燃料調達に必要な大型船舶の利用が可能となる岸壁を有する埠頭の整備に着手し、地域基幹産業の競争力の強化を図ってまいります。私も管理組合は、今後もこの地域、そして北海道の振興を支え、将来のさらなる発展に寄与していくため、利用者のニーズに応えた港湾施設の充実を図り、より利用しやすい港づくりを積極的に進めてまいります。

港づくりが進められていくものと考えています。

型化や、港湾背後で建設が進む木質バイオマス発電所の燃料となる新規貨物への確に対応するための大水深岸壁などの整備が必要となつております。国に対して事業実現に向け要望活動を展開してきた結果、今春、国の新規事業に採択されました。

また、風況に恵まれ洋上風力発電のポテンシャルが高い北海道の周辺地域では、事業化に向けた動きもあるなど、本港は設備の設置や維持管理の拠点となる役割が期待されており、2050年のカーボンニュートラルの実現に向けてお

石狩湾新港は、北海道経済の中心である札幌市に最も近い港であり、昨年、外貿コンテナの取扱個数が過去最高を記録するとともに、取扱貨物量も最高レベルとなるなど、北海道の経済を支える物流拠点として非常に重要な役割を担っています。

また、道内初のLNG輸入基地が立地し、全道へ供給が行われているほか、LNG火力発電やバイオマス、海上・陸上風力による発電も進められており、北海道におけるエネルギーの供給拠点としての役割も大きなものとなつてきています。

さらに、本年度から東地区では、鉄スクラップの海外への輸送やバイオマス発電の燃料調達に必要な大型船舶の利用が可能となる岸壁を有する埠頭の整備に着手し、地域基幹産業の競争力の強化を図ってまいります。私も管理組合は、今後もこの地域、そして北海道の振興を支え、将来のさらなる発展に寄与していくため、利用者のニーズに応えた港湾施設の充実を図り、より利用しやすい港づくりを積極的に進めてまいります。